

～令和 7 年度～
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書
(令和 6 年度事業)

令和 7 年 1 月
大口町教育委員会

大口町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに町民への説明責任を果たすため、令和6年度事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

大口町教育委員会

大口町教育委員会委員名簿

(令和7年11月現在)

教育長	長屋 孝成
教育長職務代理者	鈴村 由布子
委員	水谷 恵子
委員	舟橋 由治
委員	丹羽 力也

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1 点検評価の目的	1
2 学識経験者の知見の活用	1
3 点検評価の対象	1
4 委員会の経過	1
5 点検評価の方法	2
6 点検評価の対象事業	2
7 点検評価の内容及び意見等	3
学校教育課	5～24
学校給食センター	25～28
生涯学習課	29～48
生涯学習課(歴史民俗資料館)	49～54
図書館	55～56

1 点検評価の目的

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされた。このことにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくことを目的としている。

2 学識経験者の知見の活用

教育委員会は、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図り、前年度に実施した事業について、外部評価委員（2人）の意見をもとに点検評価を行う。

外部評価委員	松永 秀視（平成30年度大口町区長会会長）
	松岡 徳雄（社会教育委員・公民館運営審議会委員）

3 点検評価の対象

令和6年度に実施した生涯教育部各課の主要な事業を対象とする。

生涯教育部	学校教育課
	学校給食センター
	生涯学習課（歴史民俗資料館含む）
	図書館

4 委員会の経過

日 に ち	内 容
令和7年8月20日（水）	第1回外部評価委員会 開会、委嘱状交付、評価の進め方の確認 質疑（図書館、生涯学習課）
令和7年8月25日（月）	第2回外部評価委員会 質疑（給食センター、学校教育課）
令和7年9月26日（金）	第3回外部評価委員会 評価の報告

5 点検評価の方法

事業ごとに外部評価点検シートを作成し、実施状況について点検・評価を実施する。

- (1) 各課において、事業の目的、内容を明らかにし、令和6年度の事業目標、取組状況、結果（成果）、課題等に基づき点検・評価（自己評価）を行う。
- (2) 評価等の客観性を確保するため、外部評価委員会において、外部評価委員より対象事業の意見や助言（外部評価）をいただく。

6 点検評価の対象事業

【学校教育課】

- No. 1 教育委員会事業
- No. 2 学校教育管理事業
- No. 3 小学校運営事業
- No. 4 小学校施設管理事業
- No. 5 小学校教育振興事業
- No. 6 中学校運営事業
- No. 7 中学校施設管理事業
- No. 8 中学校教育振興事業
- No. 9 社本育英事業
- No. 10 こども未来応援事業

【給食センター】

- No. 1 1 給食センター運営事業
- No. 1 2 給食センター施設管理事業

【生涯学習課】

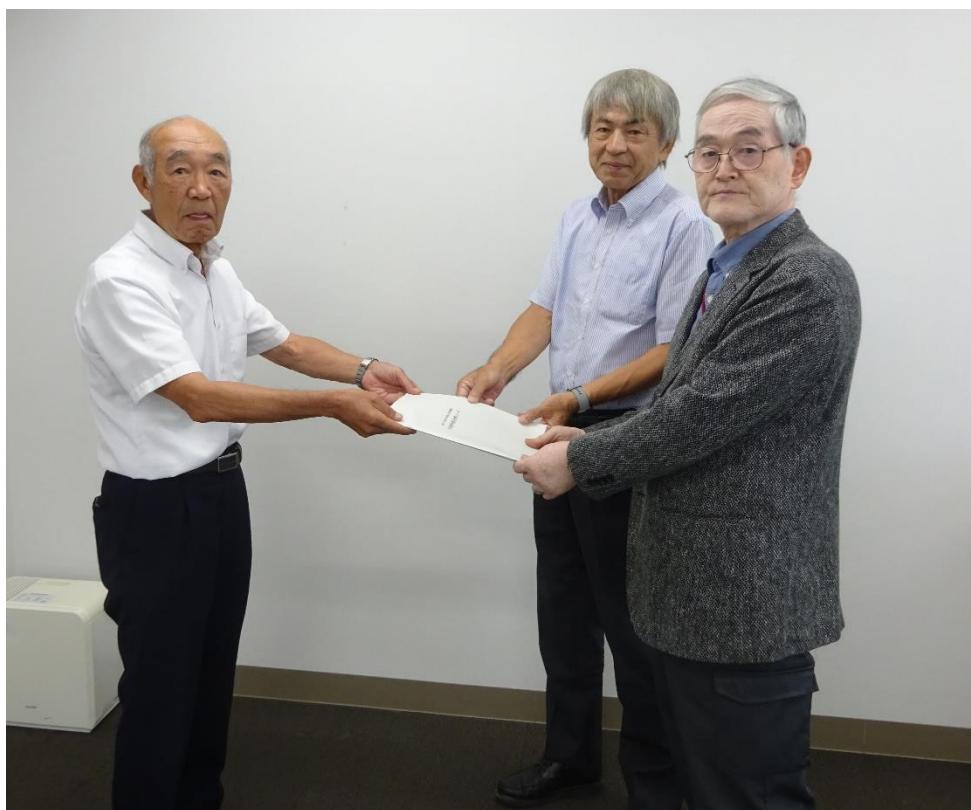
- No. 1 3 家庭教育推進事業
- No. 1 4 生涯学習活動推進事業
- No. 1 5 生涯学習講座事業
- No. 1 6 中央公民館管理事業
- No. 1 7 町民会館管理事業
- No. 1 8 社会体育振興事業
- No. 1 9 温水プール管理事業
- No. 2 0 グラウンド等管理事業

- No. 2 1 野外活動施設管理事業
- No. 2 2 文化財保護事業
- No. 2 3 歴史民俗資料館運営事業
- No. 2 4 歴史文化教育事業

【図書館】

- No. 2 5 図書館運営事業

7 点検評価の内容及び意見等



令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.1	事業名	教育委員会事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
1,898,000	1,808,667	○	○	○	○	1,808,667
1.事業目的						
教育委員会は合議制の執行機関であり、生涯学習、教育、文化、スポーツ等の幅広い施策を展開する。教育委員会制度の意義は、政治的中立性の確保、継続性、安定性の確保、地域住民の意向の反映である。						
2.事業内容						
教育委員会定例会の実施						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> 「生涯学習のまちづくり」という広い視点から教育委員会活動を考え、他部局との連携を図っていく。 定例会において、部内各課所管事業の管理執行状況を適宜報告し、事務事業の進捗状況等を遅滞なく報告し、必要に応じ意見聴取していく。 教育委員の意見交換、聴取または、委員との意見交換や協議ができるよう会議の内容について検討を行う。 令和6年度は、丹葉地方教育事務協議会の事務局を担うことから、通常業務に合わせ遅滞なく遂行することが求められる。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会定例会において毎月、学校行事等の日程を報告するが、特に学校行事において、教育委員が参加可能な行事の把握に努めた。 定例会以外のタイミングで、何らかの情報伝達事案が生じた場合は、メール配信に努めた。 						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> メールを利用した情報伝達が定着してきた。 コロナ感染症対策によって、教育委員会定例会を学校において開催することは中断していて、その再開が懸案課題となっていたが、大口中学校において開催した。 						
6.事業の課題等						
評価委員 A(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> 丹葉地方教育事務協議会の事務局を担当し、無事遂行することができてよかったです。 メール配信を利用して速やかな情報共有に努められたことはよかったです。 						
評価委員 B(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達事案が生じた場合はメール配信について、LINE グループも良いのではと思います。 教育委員会定例会を学校において開催について、推奨したいと思います。 						

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.2	事業名	学校教育管理事業		課名	学校教育課	
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
13,912,000	13,792,057	7,000	0	0	0	13,785,057
1.事業目的						
学校、家庭、地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりと授業改善を目指すとともに、教員の資質向上を図る。 確かな学力の定着と豊かな心の育成、また、健康や体力などすべてにおいて調和のとれた子どもを育むとともに、子ども一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> • 適応指導教室 • 就学時健康診断 • 教職員等健康診断 • 学習活動支援（サポートルームさくら） • GIGAスクールタブレット • ICT支援業務 • 特別支援学校給食費補助 • 学校生活管理指導表作成助成 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> • 教職員等健康診断 入札執行による業者選定と、教職員の夏休み期間中による検診を実施し、時期や方法を検証する。 • サポートルームさくら 参加者募集の見直しと、生徒及び保護者に学習の場であることを徹底し参加登録を認める。 • 学校タブレット、パソコン関係 リプレイスに向け、予備機を減らしながら修繕費用を削減する。 • ICT支援業務 教員の自発的な活用実態を把握し、学校間でそれらの情報を共有してさらに改善する。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> • ふれあいルーム ふれあいの森管理棟2階で外国語指導ボランティアグループと共有しているため、パーテーションを設置して実施。学校との連携強化を念頭に運営している。 • 学校タブレット、パソコン関係 想定していたより破損が多く、自己修繕しながらも、修繕が購入価格を上回る場合は購入することになるが次の更新が間近であることから、予備機を徐々に減らし購入数を抑制した。年度末にはかなり学校間の調整に苦労した。 • サポートルームさくら 登録者数が多く、学習環境がかなり劣悪となつたため、20名定員として強く学習意欲を持つ方を対象に実施した。 • 教職員の健康診断 長年の懸案であった、教職員の健康診断を、1社随意契約による4月実施から、入札による業者選定を導入し、8月下旬に実施した。 						

5.事業の結果(成果)

サポートルームさくらは、運営方法の改善効果があり、落ちついた雰囲気となり、指導者も手ごたえを感じている。待機者も出る時期があるので、今後は、定員増について検討をする予定である。

学校タブレットは機種更新を前に、予備機がほぼなくなり、キーボード破損機を、教員が外付けキーボードにより利用することで、児童生徒分の確保を図った。購入数は抑えることができたが、教職員には不便をかけた。

教職員の健康診断の時期を8月に移行することは、学校現場にはかなりの抵抗感があったが、大きな不具合なく終了することができた。

6.事業の課題等

教職員の健康診断は教職員固有の検診項目があり、授業の関係から今後、町が実施する会計年度任用職員の検診との調整が課題である。

評価委員A(意見等)

- ・タブレットの破損が多いようで、現場では苦労して運用しておられるようだ。更新が近いようなので、しばらくは工夫して運用してほしいです。
- ・サポートルームさくらは、生徒たちが落ち着いて学習を続け、意義のある学習の場になっている。人数的に多少余裕があるので、希望する生徒が入室できるよう働きかけをお願いしたいです。
- ・教職員の健康診断を勤務に余裕のある夏休みに実施できてよかったです。

評価委員B(意見等)

- ・学校タブレット、パソコン関係 想定していたより破損が多く、何が破損しているか今後検証してほしい。
- ・教職員の健康診断について、入札による業者選定は大変よい事だと思います。
- ・教職員の健康診断の時期を8月に移行することは、学校現場にはかなりの抵抗感はあったと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.3	事業名	小学校運営事業			課名	学校教育課						
予算額	決算額	左の財源内訳										
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源						
136,689,000	133,092,780	2,141,000	0	0	0	130,951,780						
1.事業目的												
学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業力向上をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。												
2.事業内容												
・学校支援員の配置		・児童の健康診断	・各種検査・テスト		・英語指導助手講師派遣							
・芸術鑑賞会		・スクールバス運行										
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)												
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の労働時間等が社会的な問題となっており、本町においても改善課題の一つである。 ・学校施設、設備等の教育環境や人的資源等の有効活用を一層研究し、生徒の意欲を喚起する学習指導の推進、道徳を重視した豊かな心の育成、地域に生きる者として、地域とともに歩む体制づくりに取り組む必要がある。 ・英語指導助手講師派遣 外国語指導委託業務については、長年同一業者に委託している一方で、学校現場からは不具合の声は無いため、今後、効果等を落とさずより安価な方法の検討を要する。 ・GIGA スクールタブレットの管理と更新について情報収集し検討する必要がある。 ※R7 年度更新の検討等は、県の共同調達制度への参画を前提に進めることになる。 ・学校運営予算の執行において、関係者各自が公費概念を常に念頭に置くことが求められる。 予算執行判断や処理方法について、学校、担当者等間で、一定の統一を図る必要がある。 ・予算措置科目の統廃合やその積算額を見直し、執行状況を把握しながら予算措置額の更なる見直しを図る。 ・予算執行事務手順を示し、事務水準を高めながら省略化を図る。 												
4.令和6年度の取り組み(事業実績)												
<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援員の配置 新入学児童の学校生活支援のため、1年生の学級数+1名を配置しているが、個別事情を抱えた児童、生徒が増加傾向にあるため、幅広く対応できるよう、調整を図った。 ・児童の健康診断 教職員の検診と同業者で実施してきたが、今年度から業者選定方法を変更したことから、それに対応できるスケジュール調整及び準備をしたが、大きな混乱なく実施することができた。 ・予算編成及び執行 学校規模や児童数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを行った。 また、予算執行や事務処理について、統一的な指針を示すことで、予算執行の透明性を高めつつ事務改善を実現するよう取り組んだ。 さらに前年度、学校現場に保管している机や椅子の数量を把握したことから、R7 年度当初、不足する机や椅子については、学校間の移動と、保管備品の部品を組合せて利用可能な備品を組み立てたことで、新規購入することなく対応した。 												

5.事業の結果(成果)

予算編成及び執行に関しては、執行状況を見ながら不具合についてはR7年度改善できるように調整した。また、執行に関しては統一見解を示す資料を作成し各校に通知したが、校内での情報共有に難があつたことから、年度末に関係者を集めて新年度に向けた説明会を実施した。これにより情報共有はやや進んだ感があるので今後も、継続する。

学校裁量の余地が少ない科目はその起票事務を学校教育課に移管したため、学校現場の負荷は軽減されることとなり、印刷機関係の消耗品も学校教育課で一括、購入する仕組みが機能したため、精査しながら継続する。

なお、これらの取り組みによって生まれた余剰財源を使って、学年費の中で徴収していた用紙や印刷インク代を公費としたが、その費用をより明確にするため、R7予算編成において積算項目の変更を行った。今後、金額の推移を把握し続けたい。

6.事業の課題等

評価委員A(意見等)

- 教員の労働時間については様々な角度から検討し、子どもにとっても教員にとってもプラスとなるような方向で改革を進めてほしいです。
- 西小のビオトープのように、地域と歩む体制作りは非常に価値のあるものである。
- 学校支援員の配置について柔軟に対応されていることは、とてもよいことである。今後も様々な個別事情を抱えている子に適切な支援ができるよう配慮をお願いしたいです。

評価委員B(意見等)

- 「教員の労働時間等が社会的な問題」については、教員だけの問題ではないと思う。それによって、児童・生徒への影響(教師・学校に対しての信頼・愛着等)は出ないかが気になります。
- 「学習指導の推進、道徳を重視」について、現在こそ必要な『道徳』を授業で児童・生徒が習得して頂きたいものです。
- 不足する机や椅子については、学校間の移動と、保管備品の部品を組み立てたのは大変意義のある事で、経費節約にもなり、よいことだと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.4	事業名	小学校施設管理事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
186,956,000	128,835,227	0	0	0	7,246	128,827,981
1.事業目的		児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。				
2.事業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理 ・教具、その他の設備の修繕 				
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に作成した各学校施設の個別施設計画をもとに施設の長寿命化に向けた施設管理を行っていく。 ・蛍光灯の生産が限られた業者になり、購入が難しい状況下であり、LED化されていない南小学校(校舎、屋内運動場)・北小学校(校舎、屋内運動場)についてはLED機器への更新が必要。 ・学校施設の造りや仕組みを、学校教育課職員と教職員間で共有し引き継ぐことができていないため、修繕等が必要になった際に問題が起きる可能性がある。 ・校舎の総合管理を導入しているが、その費用対効果に疑問を感じている。 ・大口南小学校、大口北小学校については、計画している修繕を行なながら、施設の管理に努める。 ・西小学校の長寿命化工事が終了し、総合管理に移行する予定であったが、費用への懸念からその意向を中止して職員による管理を継続することとした。 				
4.令和6年度の取り組み(事業実績)		<ul style="list-style-type: none"> ・施設の総合管理からの分離可能な業務項目と内容の精査を行い、別発注の可能性について検討した。 ・西小学校運動場の改修等が順調に進んだことから、校舎等照明器具のLED化工事について調査、検討し、専門業者の支援を受けて、設計図書の作成を行った。なお、国庫補助対象事業に採択されるよう国県等へ働きかけを行い、繰越明許事業として予算措置まで進んだ。 ・校舎等の老朽化の把握に努め、危険度の高いものについては積極的に改修に取り組んだ。 (南小)駐車場区画線修繕、ベランダ壁面壁落下防止工事、 (北小)空調機修繕、衛生器具交換、戸車交換、加圧ポンプ交換、側溝改修、多目的室可動壁設置、 体育館暗幕改修、 (西小)運動場面改修等工事、駐車場区画線引修繕、大屋根広場庇設置、無線LAN工事、 プール補給水管改修 				
5.事業の結果(成果)		<p>懸案であった照明器具のLED化工事関係が前倒し実施可能となったことや、総合管理から半数以上の管理項目を分離して、西小学校の委託業務に組み込む目途がついたことは、経費節減に大きく寄与すると期待できる。</p> <p>また、施設の不具合か所も積極的に修繕することで、子ども達の学校生活がより快適で、安全なモノとなることが少しづつ、目に見える形になってきているので、継続する必要がある。</p>				
6.事業の課題等		南小学校駐車場に、児童クラブを建設することになったため、それに伴う調整が今後の課題である。				

評価委員 A(意見等)

- ・照明器具のLED化が前倒し実施となってよかったです。
- ・総合管理の見直しで、経費削減に努められたことは評価できると思います。
- ・安全・安心な環境づくりに今後も務めていただきたいです。

評価委員 B(意見等)

- ・学校施設の造りや仕組みを、学校教育課職員と教職員間で共有し引き継ぐことができていない部分について、今後検証して対応していただきたいです。
- ・「総合管理に移行する予定のことだったが、職員による管理を継続する」のはよい事だと思います。
- ・児童クラブを建設することは、この時代必要な事だと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.5	事業名	小学校教育振興事業		課名	学校教育課	
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
7,439,000	7,237,144	369,600	0	0	0	6,867,544
1.事業目的						
学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、学校教育の充実に必要な教材、備品等を整備し教育の振興を図ることを目的とする。また、義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とする。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> • 副読本、教材、備品の購入 • クラブ活動への援助 • 児童の就学のための援助 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るために必要な援助を行っている。						
<ul style="list-style-type: none"> ● 就学援助の援助費目：学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費（新入学準備金）、給食費、PTA会費、卒業アルバム代 						
<ul style="list-style-type: none"> ※学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っている。 						
<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援就学奨励費の援助費目：学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費、給食費 						
<ul style="list-style-type: none"> ● 収入急減者の援助費目：給食費、修学旅行費、卒業アルバム代 						
<ul style="list-style-type: none"> ※令和2年度より開始。援助費目を限定して支援。 						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るために必要な援助を継続していく。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
就学援助の対象者がほぼ毎月、増減することから、その都度対応して、教育委員会定例会に報告した。						
学校教育課と学校事務員間で随時、情報共有した。						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年3月対象者 100人 						
5.事業の結果(成果)						
学校勤務の町事務員が滞りなく事務処理を行っている。						
6.事業の課題等						
学用品費の助成の根拠として総て、領収書を要することとしているため、事務が煩雑になっている。定額助成制度の他団体もあるので、研究及び検討をしてみたい。						
外国にルーツを持つお子さんが対象となる場合がある一方で、居住実態が十分、確認できない事例があつたことからその点についても、対応方法等について情報収集したい。						
評価委員 A(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の経済的な負担を軽減するために、困っている人に適切に支援が届くよう今後も事業を継続していただきたいです。 						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定額助成制度等改善の余地があれば、研究、検討を進めていただきたいです。 						

評価委員 B(意見等)

- 現実、義務教育を受けていない子どもたちが、成長し、犯罪を起こしたり、巻き込まれたりする事例が増えてきて、重大な問題になってきています。外国籍の子どもたちは義務教育ではないようなので、受け入れ態勢をしっかり整えていってほしいです。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.6	事業名	中学校運営事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
56,979,000	55,954,136	403,000	0	0	0	55,551,136
1.事業目的						
学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改善をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。						
2.事業内容						
・生徒の健康診断　　・各種検査・テスト　　・芸術鑑賞会　　・英語指導助手講師派遣						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の労働時間等が社会的な問題となっており、本町においても改善課題の一つである。 ・学校施設、設備等の教育環境や人的資源等の有効活用を一層研究し、生徒の意欲を喚起する学習指導の推進、道徳を重視した豊かな心の育成、地域に生きる者として、地域とともに歩む体制づくりに取り組む必要がある。 ・英語指導助手講師派遣 外国語指導委託業務については、長年同一業者に委託している一方で、学校現場からは不具合の声は無いため、今後、効果等を落とさずより安価な方法の検討を要する。 ・GIGAスクールタブレットの管理と更新について情報収集し検討する必要がある。 ・学校運営予算の執行において、学校関係者各自が公費概念を常に念頭に置くことが求められる。 予算執行判断や処理方法について、学校、担当者等間で、一定の統一を図る必要がある。 ・予算措置科目の統廃合やその積算額を見直し、執行状況を把握しながら予算措置額の更なる見直しを図る。 ・予算執行事務手順を示し、事務水準を高めながら省略化を図る。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康診断 教職員の検診と同業者で実施してきたが、今年度から業者選定方法を変更したことから、それに対応できるスケジュール調整及び準備をしたが、大きな混乱なく実施することができた。 ・予算編成及び執行 学校規模や生徒数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを行った。 また、予算執行や事務処理について、統一的な指針を示すことで、予算執行の透明性を高めつつ事務改善を実現するよう取り組んだ。 						
5.事業の結果(成果)						
<p>予算編成及び執行に関しては、執行状況を見ながら不具合についてはR7年度改善できるように調整した。また、執行に関しては統一見解を示す資料を作成し各校に通知したが、校内での情報共有に難があったことから、年度末に関係者を集めて新年度に向けた説明会を実施した。これにより情報共有はやや進んだ感があるので今後も、継続する。</p> <p>学校裁量の余地が少ない科目はその起票事務を学校教育課に移管したため、学校現場の負荷は軽減されることとなり、印刷機関の消耗品も学校教育課で一括、購入する仕組みが機能したため、精査しながら継続する。</p> <p>なお、これらの取り組みによって生まれた余剰財源を使って、学年費の中で徴収していた用紙や印刷インク代を公費としたが、その費用をより明確にするため、R7予算編成において積算項目の変更を行った。今</p>						

後、金額の推移を把握し続けたい。

6.事業の課題等

評価委員 A(意見等)

- ・教員の労働時間については様々な角度から検討し、子どもにとっても教員にとってもプラスとなるような方向で進めてほしいです。
- ・情報共有に難があったとのことではあるが、その後適切に対応されたことがよかったです。今後も円滑な情報伝達や情報共有に努めていただきたいです。
- ・余剰財源を生み出す工夫によって、学年費で徴収していた用紙やインク代が公費となり保護者の負担が軽減されたことは評価できることであると思います。

評価委員 B(意見等)

- ・外国语指導委託業務については、長年同一業者に委託してのことだったため、入札等で安価に推進できることをお願いしたいです。
- ・「印刷機関係の消耗品も学校教育課で一括、購入する仕組み」について、安価になり、学年費の中で徴収しなくて良い方向にもっていけると良いと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.7	事業名	中学校施設管理事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
123,639,000	44,473,190	0	0	0	0	44,473,190
1.事業目的						
生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設が安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。						
2.事業内容						
・学校施設の維持管理　　・教具、その他設備の修繕						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年4月の開校以来15年が経過しているが、校舎及び設備の管理については、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。特に、空調設備や給排水管の更新については検討を要する。 上記記載の通り竣工から15年以上が経過し、設備や備品の破損・不具合発生頻度が高くなっている。また、それに加えて天災等を原因とする修繕や、定期的なメンテナンス工事（施設整備事業）が今まで以上に増加することが想定されるため、計画的な施行が必要となる。 蛍光灯の生産が限られた業者になり、購入が難しい状況下であり、校舎・屋内運動場についてLED機器への更新が必要となる。 屋内運動場について、昭和49年の建築より必要に応じて耐震補強・屋上防水などは行っているが設備の老朽化は進んでいるため大規模な改修が必要となる。 学校施設の造りや仕組みを、学校教育課職員と教職員間で共有し引き継ぐことができていないため、修繕等が必要になった際に問題が起きる可能性がある。 校舎の総合管理を導入しているが、その費用対効果に疑問を感じている。 修繕箇所や学校運営上、不具合がある場所の把握に努め、安全対策上、早急に対応が必要なモノについては対処してゆく。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> 施設の総合管理からの分離可能な業務項目と内容の精査を行い、別発注の可能性について検討した。 西小学校運動場の改修等が順調に進んだことから、校舎等照明器具のLED化工事について調査、検討し、専門業者の支援を受けて、設計図書の作成を行った。なお、国庫補助対象事業に採択されるよう国県等へ働きかけを行い、繰越明許事業として予算措置まで進んだ。 校舎等の老朽化の把握に努め、危険度の高いものについては積極的に改修に取り組んだ。 (主な改修工事) 空調機、校舎ドアクローザー、体育館キャットウォーク天井張り替え、広場タイル貼り換え、排煙窓改修 地下水利用メーター交換、校舎内時計改修、運動場等スプリンクラー修繕 						
5.事業の結果(成果)						
懸案であった照明器具のLED化工事関係が前倒し実施可能となったことや、総合管理から半数以上の管理項目を分離して、委託業務契約する目途が付いたことから、経費節減に寄与すると期待できる。						
また、施設の不具合箇所も積極的に修繕することで、子ども達の学校生活がより快適で、安全なモノとなることが少しづつ、目に見える形になってきているので、継続する必要がある。						

6.事業の課題等

評価委員 A(意見等)

- ・開校以来15年が経過すれば当然いろいろな修繕が必要になってくる。適切な状況把握に努め、早めの対応が大切である。特に安全にかかわる問題については留意して取り組んでいただきたいです。
- ・学校施設の造りや仕組みについての情報共有や伝達については、しっかりと記録に残すなどの対応を適切に進め、不都合が起こらないように留意することが大切であると思います。

評価委員 B(意見等)

- ・「空調設備や給排水管の更新」は、熱中症が問題になっている為、至急対策をして頂きたいと思います。
- ・学校教育課職員と教職員間で共有し引き継ぐことができていないため、修繕等が必要になった際に問題が起きる可能性について、『施工業者不明』『図面がない』など、図面・施工業者等管理を充実させこのようないかがないようにしてもらいたいと思います。
- ・「総合管理から半数以上の管理項目を分離して、委託業務契約する目途が付いたことから、経費節減に寄与する」、良い事だと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.8	事業名	中学校教育振興事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
11,580,000	10,920,398	116,400	0	0	0	10,803,998

1.事業目的

学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、学校教育の充実に必要な教材、備品等を整備し教育の振興を図ることを目的とする。また、義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とする。

2.事業内容

- 副読本、教材の購入
- クラブ活動への援助
- 部活動の外部委託
- 生徒の就学のための援助

3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

経済的な理由により就学困難と認められる生徒の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るために必要な援助を行っている。

●就学援助の援助費目：学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費（新入学準備金）、給食費、PTA会費、卒業アルバム代

※学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っている。

●特別支援就学奨励費の援助費目：学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費、給食費

●収入急減者の援助費目：給食費、修学旅行費、卒業アルバム代

※令和2年度より開始。援助費目を限定して支援。

●部活動等の大会参加が直前に決まることから、それらの手続き法に難しい面があることから、現実に即した要綱の制定が必要だと考えている。

●部活動の在り方についての検討がなかなか進まない。現状の活動を学校現場から地域へ移行させるのではなく、部活動の教育的意義を踏まえてどこまで学校現場が担うのかを検討したい。

・経済的な理由により就学困難と認められる生徒の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るために必要な援助を継続していく。

・校外活動及び部活動等大会出場者支援の手続きを可能な限り事前に行う。また、助成要綱の見直しを行う。

4.令和6年度の取り組み(事業実績)

就学援助の対象者がほぼ毎月、増減することから、その都度対応して、教育委員会定例会に報告した。

学校教育課と学校事務員間で随時、情報共有した。

クラブ活動に入部する際に準備しなければならない用品代を助成対象とするよう、調査、研究し、要綱の改正を行った。（令和7年3月対象者 53人）

5.事業の結果(成果)

学校勤務の町事務員が滞りなく事務処理を行っている。

令和7年度から、部活動入部時の一時的な用品代を助成対象とすることが実現した。

6.事業の課題等

学用品費の助成の根拠として総て、領収書を要することとしているため、事務が煩雑になっている。定額助成制度の他団体もあるので、研究及び検討をしてみたい。

外国にルーツを持つお子さんが対象となる場合がある一方で、居住実態が十分、確認できない事例があつたことからその点についても、対応方法等について情報収集したい。

評価委員 A(意見等)

- ・部活動の在り方について、部活動の教育的意義を踏まえて検討されるのはすばらしいことである。学校現場からの見方に加え、生徒の思いや願いも考慮に入れて、今の子どもたちが困らないような運営をお願いしたいです。
- ・保護者の経済的な理由により子どもが受ける影響をできる限り軽減できるよう、適切な支援が必要なところに届くようお願いしたいです。

評価委員 B(意見等)

- ・「保護者の経済的負担の軽減を図るために必要な援助を行っている」大変良いことだと思います。
- ・「部活動の在り方について--地域へ移行させるのではなく、部活動の教育的意義を踏まえてどこまで学校現場が担うのか」について、学校で対応できるよう検討をして頂きたいと思います。
- ・クラブ活動に入部する際に準備しなければならない用品代を助成対象としたことは、クラブ活動を推進するのには良いことだと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.9	事業名	社本育英事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
8,728,000	8,677,865	0	0	8,677,865	0	0
1.事業目的						
大口町名譽町民故社本銳郎氏のご遺族からの寄付金で基金を設け、昭和57年より、町立中学校に在学し、高等学校等へ進学を希望する生徒の中から奨励金あるいは奨学金を交付する事で、生徒が将来、社会の一線で活躍されるよう支援する。また、児童生徒が校外活動を通して歴史・文化・芸術などに対して幅広い興味、見識を身につけ、様々な体験を重ね健やかな成長に寄与することを目的とする。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・奨励金候補者の推薦依頼及び決定 ・奨学金の申請受付及び決定 ・奨励金、奨学金の交付 ・歴史文化教育事業 ・校外活動への支援（計画変更、キャンセル分を含む。） 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年度から令和5年度までの41年間で295名に奨励金（平成27年度までは奨学金）を交付している。 ・平成25年度から社本育英事業スポーツ大賞を創設し、故社本銳郎氏のご意思、ご遺族の想いに応えられるようまた、地域スポーツの育成や発展を図った。 ・平成27年度に従来の施行規則を改正し、従来の奨学金を「奨励金」と名称を改めるとともに、経済的な理由により高校等への就学が困難な生徒を支援する制度として新たな「奨学金」を創設した。 ・令和2年度に事業の見直しを行い、奨励金の金額を10万円から5万円に減額し、奨学金は、成績要件をなくし5万円1回のみの支給に変更した。 ・令和2年度より児童生徒を対象とする歴史文化教育を事業に追加し、小中学校の校外活動事業助成を開始し、松江市で中学校の修学旅行を実施。また、感染症対策などで延期、中止となる校外活動のキャンセル料の負担を行っている。 ・令和3年度より姉妹都市交流を担う次世代を育成し永続的な交流へ繋げるための松江サマースクール事業を計画したが、新型コロナ感染症対策により事業が中止。令和4年度から開催。 ・松江市で計画されている中学校の校外活動の事業費に助成を行い、姉妹都市松江市との交流を通して歴史文化教育を推進する。 ・今年度は、11月中旬をめどに、松江オータムスクールとし、この間の経験を踏まえて、子ども達にとって、思い出深き姉妹都市交流事業を計画したい。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> ・奨励金(学業に秀でた生徒に交付) →7名に交付 ・奨学金(就学支援対象者が高校へ進学した際に、入学準備費用として交付) →22名に交付 ・校外活動助成 大口中学校の修学旅行や生徒の全国大会等参加費用の助成を行った。また、R7年度に向け、事務の簡素化等を図る要綱の見直しを行った。 ・11/9、11/10に、松江オータムスクールを実施した。参加者12名(参加希望者13名) 						

5.事業の結果(成果)

奨学金交付については事務手続き上、申請期限を設定しているが、R6 年度から、対象となり得る方(就学援助者)で未申請者に確認連絡する取り組みを行うことで、より積極的に子ども達の就学を支援している。

校外活動助成については、参加決定が大会直前になることが多く、事前申請が煩雑になり、実質的に困難な場合もあること。さらには、校内での立替払いが常態化していたので、学校と協議して要綱を改正した。令和 7 年度からは、それらの課題が解決できると考えている。

6.事業の課題等

松江オータムスクールを、松江の観光ハイシーズンの週末に実施したことから、宿泊先の確保が難しくかつ、費用も高額となった。また、参加希望者も少なかったことから、次年度は、夏休みに戻したい。

評価委員 A(意見等)

・奨励金や奨学金の交付、松江オータムスクール実施等意義のある事業が展開されている。今後も本来の事業目的に照らし合わせ、事業のあり方を検討・工夫していくことが必要であると思います。

評価委員 B(意見等)

・今後も、優れた行動の者・産業に寄与する発明考案者・文化・芸術に優れた者・その他児童・生徒に夢と希望を持ってくれるように、奨励金を出して頂きたいと思います。

・奨励金(学業に秀でた生徒に交付)について、学業だけに限定しないで、交付して頂きたいと思います。
・「参加決定が大会直前」「校内での立替払いが常態化」は、課題解決したいものです。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.10	事業名	こども未来応援事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
4,567,000	4,559,534	0	0	97	0	4,559,437

1.事業目的

町への寄付金と一般会計からの繰入金を財源とするこども未来応援事業において、子どもたちの成長段階に応じた支援を行うことで、人財を育成することを目的とする。

2.事業内容

- 私立高等学校等授業料補助金 • 奨学金返還支援
- 高等学校等通学費助成 • 次世代育成活動奨励事業

3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

- 令和2度まで一般会計において行ってきた私立高等学校等授業料補助、奨学金返還事業を令和3年度からこども未来応援事業において実施。
- 令和2年度から、高等学校等通学費助成を開始。高等学校等へ定期券等を購入し通学する生徒の保護者の負担軽減を図ることを目的に通学費の一部を助成する制度。所得制限は設けず、年間6万円を超える場合に3万円を上限として助成。
- 令和3年度から、次世代育成活動奨励事業を開始。個人、団体の自己研鑽を継続する活動や社会への寄与を目指し研究に取り組み活動を助成対象とし、活動内容等を広く周知する支援を行っていく。
- 令和5年度から、私立高等学校等授業料補助について、要綱を改正し、通信制高等学校を対象とした。
- 高等学校等通学費助成については、助成開始から3年が経過し、令和5年度、その財源となる財産収入額を勘案して、助成額の上限額を減額する見直しを実施することを検討したが、昨今の社会情勢から、現状の上限額を維持し、財源に不足を生ずる事態となった折には、一般財源で補填することとした。

4.令和6年度の取り組み(事業実績)

- 通学費助成申請者が増加傾向にあり、助成額は減額せず、特定財源を充当して不足分は一般会計から補填することとしたため、今年度も繰り入れた。助成者 126名 一般会計繰入額 684,857円
- 授業料助成は、国県の助成制度の充実により、対象者は減少傾向である。助成者 48名。
- 奨学金返還助成 34名
- 次世代活動奨励事業は、6名の方に助成した。その活動について、広報おおぐちに掲載し、まちの皆で活動を応援するよう促した。

5.事業の結果(成果)

限られた財源ではあるが、可能な限り、子ども達の成長に影響する家庭環境の差を少しでも抑制できるような、子育て中の保護者の方を応援できる施策を継続したいと考えているが、少しずつ、改善できてはいるので、今後も継続したい。

また、次世代活動奨励事業については、申請や実績報告等、手続きが面倒との声も聞かれるが、適正な公金支出とまち全体で応援するという考え方を継承するためには必要であると考えている。

6.事業の課題等

評価委員 A(意見等)

・人材育成という事業目的は、今後の社会を考えると何よりも大切なことである。限られた財源を生かしてこれからを生きる子どもたちを応援できるようにしていただきたい。できれば財源を増やすことができないものか、とも思います。

評価委員 B(意見等)

・次世代活動奨励事業については、申請や実績報告等、手続きが面倒との声も聞かれるとのことであれば、極力簡単にし、申請がしやすくする事が大切かと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.11	事業名	給食センター運営事業			課名	学校給食センター
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
168,461,000	168,104,412	0	0	0	67,181,165	100,923,247
1.事業目的						
学校給食で児童・生徒が、日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うことができるよう、また、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性をはぐくんでいける基礎をつくる。						
2.事業内容						
・食材の調達　　・給食の調理　　・配送、回収　　・食器等の洗浄						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
日常業務の調理及び配送等の業務は、本年度も直営で行っていくが、正規の調理員、安定的な運営のため、今後も安定稼働を実現する。残菜量の問題は、引き続き学校と連携して、少しでも減らすように取り組む。学校給食における地産地消の推進は、新たな地場産物の提供がえられるよう農業生産団体と調整を図る。コロナウィルス感染症拡大防止のため行ってきた、パンやりんご、柿、梨等のデザート類については、できるだけ個食包装で提供する。						
食材等の物価高騰については、献立の工夫や物資選定を適切に行い、現在の給食費で質、量の確保を保てるよう努力をする。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
パンとデザートの果物類（リンゴ、オレンジ、パイン、等）について感染症対策及び食品衛生面からも個包装で提供する。食材費が高騰している中で、献立の工夫や物資選定の中で何とか質と量を保つことを目標とする。						
5.事業の結果(成果)						
学校給食に使用した地場産物の品目数は、昨年より2品少ない3品目（大豆、小松菜、キャベツ）であった。パンとデザートの果物類（リンゴ、オレンジ、パイン、等）について感染症対策及び食品衛生面からも個包装で提供することができた。食材費が高騰している中で、献立の工夫や物資選定の中で何とか質と量を保つことができた。						
6.事業の課題等						
食材特に米の値上がりにより、来年度早期に給食費の値上げを行う必要がある。 学校給食に使用する地場産物の品目数を増やしていきたいが、増やせる状況にならない現状がある。						
評価委員 A(意見等)						
・物価高騰の折、食材や献立の工夫で給食の質と量を維持されているのは、本当に大変なことだと思います。 ・給食費が全額町負担になったのはすばらしいことだと思います。						

評価委員 B(意見等)

- ・「個食包装で提供する。」について、勧めていってもらいたいと思います。
- ・食材費が高騰している中で、献立の工夫や物資選定の中で何とか質と量を保つのは、子どもたちにとってとても大切なことなので、値上げ(町費)してでも内容を確保してほしいと思います。
- ・地場産物の品目数について、形式にこだわるのではなく、できる限り増やしていく方法を生産者等と検討していってほしいです。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.12	事業名	給食センター施設管理事業			課名	学校給食センター
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
56,843,000	51,809,497	0	0	0	0	51,809,497
1.事業目的						
安心・安全な学校給食が提供できるよう、施設の維持管理を行うこと。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費の管理・施設、設備機器の修繕 ・保守点検、清掃等の業務委託・備品の維持管理 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> ・新センター建設にむけて、施設整備基本計画を作成する。既存の施設については、早期に不具合箇所を見し、安定運営ができるようにする。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<p>給食センター備品として、二重食缶10個、コンテナ2台、スポットクーラー2台、カート2台、洗濯機1台、ウォーターカークー1台を購入した。</p> <p>故障箇所を早急に修繕したことにより、年間を通じて給食提供をすることができた。</p>						
5.事業の結果(成果)						
<p>給食センター備品として、二重食缶10個、コンテナ2台、スポットクーラー2台、カート2台、洗濯機1台、ウォーターカークー1台を購入した。</p> <p>故障箇所を早急に修繕したことにより、年間を通じて給食提供をすることができた。</p> <p>整備基本計画については、再度府内で検討するため、施設整備基本計画を取りやめた。</p>						
6.事業の課題等						
施設の老朽化が進んでいるので、早期に施設整備基本計画を策定する必要がある。						
評価委員 A(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> ・新給食センター建設に向け、少しでも早く計画が進むことを願っています。 ・毎年の猛暑に働く環境は厳しいものであると考えられる。スポットクーラー等導入によって多少は改善されたかと思うが、引き続き労働環境の改善にも留意していただきたいです。それが安心安全な学校給食の提供にもつながると思います。 						
評価委員 B(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> ・「早期に施設整備基本計画を策定する必要がある。」について、早急に勧めていただきたいと思います。 ・新センター建設が遅れているようだが、完成するまで、作業環境をよくすることが大切だと思います。 						

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.13	事業名	家庭教育推進事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
1,177,000	1,139,283	0	0	0	309,800	829,483
1.事業目的						
将来を担う子どもたちの健全育成は、学校・家庭・地域及び子どもに関する関係機関が連携し、すべての教育の基である家庭教育の充実を図り発展させること。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> • 家庭教育講座 <ul style="list-style-type: none"> ※小学生以上を対象にした講座や親子を対象にした自然体験教室等を開催する。 • 青少年問題協議会 <ul style="list-style-type: none"> ※会議（年1回）啓発活動（年1回） 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> • 親子講座や親子がふれあいながら、ともに学習できる機会の提供など充実を図る。 • 教室に参加した方にアンケートを実施しながら、新たなニーズをつかんでいく。 • 事業や開催時期などが重複しないよう、他の部局と情報を共有しながら連携を密にする。 • 令和5年度において、日間賀島自然体験教室が観光協会との地引網体験ができなかつたため実施を見送った。観光協会と連携を図りながら、事業の実施を図っていきたいと考える。 • 子どもたちに町内企業を知ってもらい興味を持つことができるきっかけづくりを考えていきたい。 						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
○家庭教育講座の受付及び事業展開						
<ul style="list-style-type: none"> • 「お天気の不思議」（1回 参加人数 51名） • 「お天気の不思議 2」（1回 参加人数 40名） • ヤマザキマザック美術館へ行こう 特別展「布施知子 OR I GAM I -紙の鼓動-」を鑑賞しよう!!（1回 参加人数 10名） • 親子自然体験教室（日間賀島）（参加人数 13組38名） • 親子自然体験教室（阿智村）（参加人数 12組30名） 						
<生涯学習のまちづくり実行委員会開催講座>						
<ul style="list-style-type: none"> • 「浴衣の着付け教室」（1回 参加人数 5名） • 「昆虫の標本づくり」（1回 参加人数 10名） • 「ドローン操縦体験教室」（1回 参加人数 12名） • 「動物と暮らす 動物から学ぶ」講座 「サルから学ぶ 心と脳①」（1回 参加人数 8名） • 「動物と暮らす 動物から学ぶ」講座 「サルから学ぶ 心と脳①」（1回 参加人数 11名） • 「動物と暮らす 動物から学ぶ」講座 「野良猫が拡散する遺伝病の話①」（1回 参加人数 14名） • 「動物と暮らす 動物から学ぶ」講座 「野良猫が拡散する遺伝病の話②」（1回 参加人数 12名） • 「手羽先骨格標本づくりにチャレンジしよう！」（1回 参加人数 9名） • 「獣医師って①」講座（1回 参加人数 14名） • 「獣医師って②」講座（1回 参加人数 19名） • 理科おもしろ実験講座 「巨大シャボン玉を作ろう！」（1回 参加人数 20人） 「いろいろなスライムを作ろう！」（1回 参加人数 12人） 「理科マジックを楽しもう！」（1回 参加人数 10人） 						

「回る回る！ブーメラン・くるくるコプター」（1回 参加人数9人）

○ふれあいまつり2024

- ・大口中学校PTA 千本釣り（参加人数400人）
- ・大口北小学校PTA 親子かわいい台づくり（参加組数54組）
- ・大口西小学校PTA わなげにチャレンジ（参加人数720人）
- ・大口南小学校PTA おかしすくいおもちゃすくい（参加人数403人）

○青少年問題協議会

青少年問題協議会で巡回パトロール実施（ヨシヅヤ、MEGAドン・キホーテUNY、バロー）

中学校・保護司と連携して、校外巡回時に啓発チラシ・グッズを配布

5.事業の結果(成果)

- ・日間賀島の自然体験教室については、令和5年度は観光協会と調整がつかず、見送ったが、今年度は地引網から内容を魚つかみを主とした体験に変更し、親子のふれあいができた。阿智村においては、令和5年度に引き続き（一社）阿智村全村博物館協会による親子自然体験教室を行い、間伐とスウェーデントーチを親子で体験し、親子のふれあいができた。またアンケートから「現地に行かないと体験できないことをしたい」というニーズがあり、今後の企画の検討の際には参考にしていきたい。
- ・青少年問題協議会においては、令和5年度に引き続き、会議において江南警察署による地域の状況を聞き、さらに近年の犯罪の手口についても聞き、令和6年8月21日に巡回パトロールを行うことができた。
- ・ヤマザキマザック博物館を予定していたが、ヤマザキマザック美術館において、折り紙に関する特別企画展に合わせて事業を行い、町内企業を知ってもらうことに加え、身近な折り紙を通して芸術に触れてもらうことができた。

6.事業の課題等

- ・社会構造の変化に伴い、子育て家庭の孤立や地域の子育て力が低下しているなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する状況で、家庭や地域がその教育力を高めていくことが重要である。
- ・住民のニーズを的確に把握し、家庭・学校・地域で子どもたちが世代間を超えた交流ができる環境づくりや、青少年の豊かな人間性、社会性を育むため、集団生活における人間関係を身につけさせる機会として、地域における自主的活動やボランティア活動を活発にしていく必要がある。

評価委員 A(意見等)

- ・家庭教育の充実を図ることは将来を担う子どもたちの健全育成には欠かせないことであり、時代に合わせて住民のニーズをつかみ、様々な事業を計画されていることはすばらしいと思います。
- ・地域における自主的活動やボランティア活動を活発にしていくためには、他団体との協力も欠かせないのと連携を検討してほしいです。

評価委員 B(意見等)

- ・「町内企業を知ってもらい興味を持つことができる」のは、将来の担い手になってもらえるのでよいことだと思います。
- ・日間賀島自然体験教室の地引網から魚つかみにしたのは、なかなか経験できない体験が出来てよい事だと思います。
- ・子育て家庭の孤立や地域の子育て力が低下、家庭や地域がその教育力を高めるについて、どのような方法で対応されるか検討していただきたいです。
- ・地域における自主的活動やボランティア活動に参加する事は郷土愛にもつながり、大切であると思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.14	事業名	生涯学習活動推進事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
18,898,000	17,152,065	0	72,280	200,000	0	16,879,785
1.事業目的						
人々が自らの意思で、生涯学習活動を進めることにより、大口町生涯学習基本構想に基づく「生涯学習のまちづくり」を目指すこと。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・文化振興（芸能文化事業） ・地域学校協働本部事業・文化協会支援 ・二十歳の集い実行委員会支援 ・リフレッシュリゾート施設利用助成 ・少年少女発明クラブ支援 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
開かれた学校づくりの一環として、地域住民が学校支援ボランティアとして協力ができるよう、地域学校協働本部は学校が困っていることを把握し、その問題に対応できる学校支援ボランティアを派遣できるように体制を整えていく。また、ボランティアから「こんな支援ができる」などの提案を聞きながら学校活動を支えていく。						
文化協会及び各種団体については、令和5年度中に脱退する団体あったため、生涯学習講座と連携し、団体の魅力を引き出しながら、各団体の会員が増えるように進めていく。						
少年少女発明クラブについては、子どもたちが理科に興味を持ち続けることができるよう、引き続き体制の支援を図っていく。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業や文化協会の事業において、各事業を実施した。						
○地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業						
ボランティア登録人数 83人（R7. 3月末）						
・大口中学校（抜粋）						
「ふれあい清掃」：生徒と一緒にプランター及び花壇の植替えや除草などを実施（延べ22回 123人）						
「図書館サポート」：推薦図書のポップ作り、本のカバー貼り、本の清掃などの作業を実施（延べ19日 132人）						
「特別支援学級授業サポート」：ボランティアと学校との打合せ会により授業分担を決め実施（延べ174日 211人）						
小学校支援						
・大口南小学校 環境サポート（延べ21回233人）、図書館サポート（延べ16回58人）などを実施。						
・大口北小学校 環境サポート（延べ33回229人）、図書館サポート（延べ35回207人）などを実施。						
・大口西小学校 環境サポート（延べ14回66人）、図書館サポート（延べ12回85人）などを実施。						
○文化協会支援						
文化部、芸能部合わせて17団体、232人						

事業実績（作品展・芸能発表会・教室・発表会） 74事業

○芸能文化事業

ほほえみコンサート（3回） なんでもマラソンコンサート（1回）

大人のピアノ発表会（1回） おおぐち合唱祭（1回）

○大口少年少女発明クラブ

大口少年少女発明クラブ 9回（6月から3月）22人参加

○二十歳の集い実行委員会支援

二十歳の集い参加者188人参加

○リフレッシュリゾート施設利用助成

助成額1,893,000円

（日間賀島186件 邇神温泉228件 共済36件 松江112件 遠野2件 南三陸2件
FDA利用78件）

5.事業の結果(成果)

- 学校支援地域本部については、学校でのボランティア活動を大口町のホームページを用いてPRし、活動内容について、多くの人に知ってもらうことに努めた。学校からのボランティア活動の具体的な要望として、花壇の草抜、枝の剪定や倉庫の清掃活動などがあり、それらの要望に応えられるよう努めることができた。今後もボランティア登録者が引き続き、学校支援活動に取り組んでもらえるよう支援を継続していく。
- 文化協会においては、作品展と芸能発表会を文芸部と芸能部の垣根を超えて、協会全体で企画から当日の運営まで行い、全体の一体感が高まった。また、下部団体については、一般向けに慰問施設や発表会の活動を行った。
慰問施設や発表会の活動は令和6年度は74件で、令和5年度54件から20件増加している。
会員数については令和5年度から14人減少した。引き続き会員数の増加に向けて文化協会通信や活動を通じてPRしていく。
- 芸能文化事業においては、団体の協力により、ほほえみコンサート、なんでもマラソンコンサート、大人のピアノ発表会、おおぐち合唱祭を実施することができ、多くの方に音楽にふれあう場を提供できた。
また、少年少女発明クラブにおいて、町内企業技術者OBから専門的なモノづくりを教わることができる場を提供できた。
- ダンス＆ミュージックは、団体から参加者が他のイベントに出場する機会が多くなり、参加者が少なくなったため、開催に向けて検討を行ったが、開催は難しいという申し出があり、今後の実施は難しい結果となった。
- リフレッシュリゾート施設利用助成については、令和5年度から宿泊助成が7件増加している。またFDA利用助成については35件増加している。また令和6年度には新たに中央公民館の廊下にリフレッシュPR用のスペースを設け、各宿泊地域の観光に関するチラシを設置し、利用促進に努めた、引き続き、PRをしながら利用を促せねばと考える。

6.事業の課題等

社会教育関係団体の活性化を進めるとともに、生涯学習関連団体等が自主活動の内容等を情報発信できるように進め、関連団体が町内で行う様々な活動や事業に連携して取り組んでいる。

地域学校協働本部事業については、安定した運営を引き続き継続していくよう、体制を維持していくことが必要である。

文化協会においては、作品展や発表会、講座の実施など個々の活動以外にも様々な事業に取り組んでいるが、活動団体や会員の減少傾向が続いている。

評価委員 A(意見等)

- ・学校支援地域本部のボランティア登録人数が減る傾向にあり様々な努力をされていると把握しているが、さらなる広報活動と他団体との協力を進めてほしいです。
- ・リフレッシュリゾート事業助成については、今後も継続する予定ならば助成対象（地域等）を拡大した方が利用のしやすさと公平さが増すと思います。

評価委員 B(意見等)

- ・地域住民学校支援ボランティアから「こんな支援ができる」など登録をしてもらうと良いと思います。
- ・大口少年少女発明クラブは、発明・考案する力、『想像力・創造力』をつける講座等を開講すると良いと思います。
- ・学校支援地域本部について、ボランティア登録者を引き続き継続して行くのではなく、新規の『内容』の登録者の募集が良いのではと思います。
- ・文化協会に活動団体や会員の減少傾向を食い止めるのに、『ふれあいまつり』等で文化協会の内容説明を周知してもらい、入会を促すと良いと思います。また、町内外の各種団体に呼び掛けるのも良いと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No15	事業名	生涯学習講座事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
1,581,000	1,280,367	○	○	○	68,100	1,212,267

1.事業目的

町民一人ひとりが、変化の多い社会の中で「明るく、楽しく、豊かに」生きることを願い、様々な分野の各種講座を開設し、個々の教養や技術を習得すること。

2.事業内容

- 定期講座
※主に教養を深めることや趣味の拡大を目的に随時1講座6回程度開催する。
- 高齢者教室（さくら大学）

3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

講座内容について、企画する上で、旬な講座も取り入れながら実践に役立つ講座や地域の住民が講師となり活躍できる講座の開設を中心に、参加人数にとらわれず、様々な方面から情報を模索し、きっかけづくりとなる講座を考える。

また、さくら大学については、憩いの四季と連携しながら、講習会を実施していく。

松江市提携講座については、例年來待石彫刻体験講座を実施しているが、松江市で行っているほかの講座などを視野に入れながら、講座内容を検討する。

4.令和6年度の取り組み(事業実績)

- 「写真入門」講座（6回 参加人数 6人）
- 「楽しいパステル画」講座（6回 参加人数 12人）
- 「俳句の世界をのぞいてみよう」講座（2回 参加人数 5人）
- 「ふれて、学んで、作って来待石博士になろう」（1回 参加人数 10組 22人）
- 「綺麗を実感 バレリーナと一緒に目指そう 美しい姿勢&所作」講座（3回 参加人数 13人）
- 「クラフトバンドってなあに?クラフトバンドでバッグを作ってみよう!!」講座（4回 参加人数 10人）
- 「ユネスコ無形文化遺産 伝統的酒造りを深掘り!!」講座（1回 参加人数 13人）
- 「落語から学ぶ「温かい笑い」とは」講座（1回 参加人数 25人）
- 高齢者教室～さくら大学～（12回、延べ参加人数240人）

5.事業の結果(成果)

- 「俳句をつくってみよう」や「写真入門」、「楽しいパステル画」は、町内で活動する団体や町内在住の方に講師を依頼し、団体の活動普及や講師として活躍できる場の提供をした。
- 大人向きの講座（「綺麗を実感バレリーナと一緒に目指そう 美しい姿勢&所作」、「クラフトバンドってなあに?クラフトバンドでバッグを作ってみよう!!」）を平日の夜の時間帯に実施し、働き世代にも受講できる機会の提供をした。
- 「ユネスコ無形文化遺産 伝統的酒造りを深掘り!!」では、大口町のふるさと納税の返納品であるお酒（五条川桜）の酒蔵の杜氏さんに講義を依頼し、五条川桜ができた話など大口町の魅力を住民の方に知つてもらう機会を提供した。
- 「ふれて、学んで、作って来待石博士になろう」では、令和5年度の彫刻体験から内容をより子どもたちに

も親しんでもらえるようスノードームづくりと来待石のペンダントづくりに内容を変更した。松江市の来待ストーンミュージアムから講師に招き、大口町で松江市に触れるきっかけを提供した。

- ・生涯学習基本構想のキーワード「学びを創る」「学びに集う」「学びをつなぐ」という考え方のもと、「誰でも、いつでも、気軽に学べる」をモットーに、幅広い年齢層の方を対象に様々な学習機会の提供をしていきたい。

6.事業の課題等

コロナ前は前期・後期に分けて様々な講座を企画していたが、コロナ禍で講座開催を自粛して以降、十分な講座数や連続した回数の講座開催ができない。以前のように講座数を増やし・前期・後期に分けて開催実施できるよう、外部委託等検討をし、生涯学習講座等の充実を図りたい。

評価委員 A(意見等)

- ・「学びたい」という思いは年齢を問わず誰にもあるもので、興味関心があれば参加者も多い。参加者の年齢を考慮し開催時間を変えたり、外部講師を依頼したり様々な工夫がみられる。
- ・講座数を増やしたり、前後期分けたりとさらに事業を充実させようとする積極的な姿勢はすばらしいと思います。
- ・地域と連携し、地域ごとの開催を計画してみるのもおもしろいと思います。

評価委員 B(意見等)

- ・外部委託等検討をし、生涯学習講座等の充実を図りたいというのは良い方法だと思います。
- ・高齢者教室（さくら大学）で、「IT 関係・パソコン・スマホ等」、「子どもと共に学び、IT における危険性」など継続して学ぶ講座を推進していってほしいです。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.16	事業名	中央公民館管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
75,710,000	72,245,682	0	3,337,520	0	1,205,874	67,702,288
1.事業目的						
町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が気楽に集まり教養や技術を習得することができると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用者対応 ・設備の維持管理 <p>※外注分は協議・契約・履行確認</p>						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
随時発生する不具合において、その都度迅速に対応していく。また、光熱水費について、経済的な面、環境的な面から節制を心掛けっていく。調理室のガスコンロが古くて点火しないものがあるためため、ガスコンロ機器の入れ替えを検討する。						
工事において、令和5年中に生涯学習課事務所の空調が壊れたため、補正対応で取替工事を行った。同時に更新した教育長室及び学校教育課事務室の空調があるため、取替工事を実施する。文化祭でC会議室において絵の展示をしているが、パネル設置は危ないため、中央公民館のピクチャーレール取付工事を行う。ネット環境を充実させるため2階及び3階の学習スペース、図書館の受付及び一般図書室に WiFi を増設する。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
修繕（主なもの）						
4月 中央公民館南倉庫シャッター破損取替修繕 363, 000円						
8月 視聴覚室空調機修繕 93, 500円						
12月 中央公民館出入口フロアヒンジ取替修繕 429, 000円						
3月 中央公民館計測装置取替修繕 720, 500円						
工事						
6月 2階事務室空調取替工事費 1, 485, 000円						
9月 中央公民館ピクチャーレール取付工事 275, 000円						
11月 中央公民館2階通路掲示板設置工事 286, 000円						
3月 Wi-Fi ネットワーク増設工事 836, 000円						
備品購入						
調理室ガスコンロ 325, 494円						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> ・施設老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。 						
主な修繕については、出入口の油圧式のフロアヒンジが経年劣化による修繕、太陽光計測装置が故障していたため、取替修繕を行った。						
<ul style="list-style-type: none"> ・電気、ガスなどの光熱水費については、施設利用者の理解を得ながら節電に努めた。 						
<ul style="list-style-type: none"> ・主な工事としては、昨年度に続き教育長室及び学校教育課事務室の空調機の取替工事、C会議室において 						

パネル設置ができるように、ピクチャーレール取付工事、中央公民館2階学習スペース及び研修視聴覚室、3階図書館、一般図書室・学習スペースに利用者にWi-Fiが使用できるよう増設工事を行った。

- ・2階調理室のガスコンロが老朽化していたため、ガスコンロ7台を備品購入した。

6.事業の課題等

施設内の老朽箇所が散見されるため、隨時対応していく。特に配管設備や電気設備について、急な不具合が発生する事案が度々あり、その都度修繕対応が必要である。また、周辺の樹木の剪定・伐採など、外観美化にできる限り努めていく。

評価委員 A(意見等)

- ・施設老朽化に伴う不具合は、安全面に特に配慮し迅速に対応していただきたいです。
- ・ネット環境の充実は、昨今のスマホやタブレット等の利用を考えると、学習者にもありがたいことだと思います。

評価委員 B(意見等)

- ・出入口フロアヒンジ取替修繕・ピクチャーレール取付工事・2階通路掲示板設置工事について、価格が妥当なのか検証してください。かなり高額のような気がします。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.17	事業名	町民会館管理事業			課名	生涯学習課									
予算額	決算額	左の財源内訳													
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源									
20,832,000	20,281,492	0	1,659,770	0	714,194	17,907,528									
1.事業目的															
町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が学習成果の発表を行う場や講習等の教養を習得すると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。															
2.事業内容															
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用者対応 ・設備の維持管理 <p>※外注分は協議・契約・履行確認</p>															
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)															
施設の効果的な運用を図るとともに、修理箇所が発生した場合はその都度対応するなどして、適切な維持管理を実施していく。 自家発電が当初から利用しているため部品がなくなりつつある。経年劣化している箇所を中心に機器を継続して利用できるよう修繕を行っていく。 高齢の方が発表することができる場でもあることから、入り口付近や階段を中心に手摺を付け、高齢の方にも利用しやすくするため工事を行う。															
4.令和6年度の取り組み(事業実績)															
<p>修繕（主なもの）</p> <table> <tr> <td>11月</td> <td>町民ホール内空調機工アーフィルター交換</td> <td>137,500円</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>移動椅子ドライブリンクローラー修繕</td> <td>415,800円</td> </tr> </table> <p>工事</p> <table> <tr> <td>11月</td> <td>町民会館手摺取付工事</td> <td>432,300円</td> </tr> </table>							11月	町民ホール内空調機工アーフィルター交換	137,500円	2月	移動椅子ドライブリンクローラー修繕	415,800円	11月	町民会館手摺取付工事	432,300円
11月	町民ホール内空調機工アーフィルター交換	137,500円													
2月	移動椅子ドライブリンクローラー修繕	415,800円													
11月	町民会館手摺取付工事	432,300円													
5.事業の結果(成果)															
<ul style="list-style-type: none"> ・施設が建設から30年以上経過しており、老朽化のため突然的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。主な修繕については、移動椅子ドライブリンクローラーの経年劣化による部品交換修繕を行った。 ・自家発電設備については、大規模なものになるため、今後の課題となっている。 ・工事としては、町民会館客室の2階から3階への階段及び3階ホール入口階段への手摺取付を行い、利用者に利用しやすくするための工事を行った。また、来年度も継続して、1階会議室、ホールステージ側の1階から2階への階段手摺取付を行っていく。 															
6.事業の課題等															
施設内の老朽箇所が散見されるため、隨時対応していく。 調光盤やケーブルなどの舞台照明機器については、耐用年数の経過や経年劣化により機器更新の計画等の検討が必要である。															

町民会館の消防用自家発電設備については建設当初から使用しており、経年による老朽化のため、取替を行っていく必要がある。

評価委員 A(意見等)

- ・安心・安全な環境を維持するために、常に状況を把握し迅速に対応をお願いしたいです。
- ・手すりの設置は高齢者や身体が不自由な方のことを考えると必須なものであり、今後施設を利用しやすくなると思います。

評価委員 B(意見等)

- ・移動椅子ドライブリンクローラー修繕・町民会館手摺取付工事について、価格が妥当なのか検証してください。
- ・ケーブルなどの舞台照明機器は、危険なので進めるに良いと思います。
- ・町民会館の消防用自家発電設備の機器更新は、大切だから進めるに良いと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.18	事業名	社会体育振興事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
9,415,000	7,936,293	0	574,155	0	0	7,362,138
1.事業目的						
町民が暮らしの中に「スポーツ」を取り入れ「健康」と「元気」になれるよう、「町民と結びついた社会体育」をスローガンに各種講習会や大会などを開催し、町民にスポーツ参加の機会と普及に努めること。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室開催 ・スポーツ大会開催 ・愛知駅伝記録会 ・丹羽高等学校体育施設開放運営委員会・地区別ソフトボール大会 ・町民体育祭 ・桜並木健康ジョギング ・スポーツ協会支援 ・スポーツ少年団支援 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
普段仕事や子育て等でなかなかスポーツにふれあう機会の少ない世代に対し、生涯スポーツのきっかけとなるようなアプローチを実施していく。						
ニュースポーツ教室において、例年タグラクビー教室を行っていたが、令和5年度モルック体験教室を企画し、実施した。幼児から高齢者までできる教室であるため事業の継続を図る。						
町民体育祭は令和5年度半日開催を計画したが、雨天のため中止なった。今年度についても各区長や実行委員の意見を聞きながら、半日開催ができるか検討する。						
地区別ソフトボールについては、令和5年度女子チームの参加が1チームしかなったため、参加方法を見直しながら検討する必要がある。						
スポーツ協会及びスポーツ少年団については、自立した運営が図れるよう引き続き支援を行っていく。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> ・講座・教室 モルック教室（1回 25人） ・スポーツ推進委員活動 委員会（委員会11回開催、スポーツ教室、町民体育祭、桜並木健康ジョギングなどを運営） ・スポーツ大会開催 地区別ソフトボール大会（9月8日、15日開催） 地区別対抗グラウンドゴルフ大会（11月23日開催） 参加チーム19チーム 町民体育祭（半日開催 プログラム参加者総数2,460人） 愛知万博メモリアル第17回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（20人参加） 桜並木健康ジョギング（参加者数403人：5km102人、3km192人、1.8km109人参加） ・スポーツ協会・スポーツ少年団事業 スポーツ協会（9団体） 						

春季町民総合体育大会
第50回扶桑町・大口町親善体育大会
秋季町民総合体育大会
グラウンドゴルフ大会などを実施
スポーツ少年団（4団体）
全国スポーツ少年団軟式野球交流大会地区大会
体力テスト　交流会
愛知県スポーツ少年大会西尾張支部大会などを実施

5.事業の結果(成果)

- ・スポーツ推進委員活動について、モルック体験教室を実施した。モルック体験教室では、年齢問わず参加でき、ルールもわかりやすいため、小さな子どもから高齢者まで多世代の参加があった。他の市町村でも注目を集めているスポーツであるため、継続を考える。
- ・町民体育祭については、コロナ禍と令和5年度は雨天中止のため、令和元年以来5年ぶりに半日にて開催した。令和7年度どのように実施していくか実行委員会で再度検討し、地区的交流ができる場を残していく。
- ・地区別ソフトボール大会及び地区別グラウンドゴルフ大会については、令和4年度までコロナ禍で実施を中止していたが、令和5年度から参加チームを制限し、区の協力を得ながら実施することができた。地区別ソフトボールの女子の部については、1チームのみの申込にとどまり、実施することができなかつたため、令和7年度の課題となる。
- ・スポーツ協会及びスポーツ少年団の運営については、各団との連携を密にとり、円滑な事業となるよう尽力した。今後も各団の自主自立による運営のため、助言などを行っていく。

6.事業の課題等

若い世代から高齢者まで、生涯にわたって健康・体力づくりに取り組めるよう、多様なスポーツに親しむ機会の充実に努めていく。

子ども向けのスポーツ事業については、総合型地域スポーツクラブであるNPO法人ウィル大口スポーツクラブと役割確認しながら、引き続き事業を継続していく。

イベントについては、継続していくため、その時々にあった内容を取り入れながら実施していく。

団体支援については、団体のみが参加する活動だけではなく、地域の人たちも参加できる形での地域貢献の場を設けていく必要がある。

評価委員A(意見等)

- ・社会体育が多様化して、競技者の人数が減ってきている種目もある。時代のニーズに合わせて、町民の運動環境をどのように構築していくか検討していく必要があると思います。
- ・軽スポーツの振興は、地域と協力して地域ごとに体験教室等を開催するのもよいと思います。

評価委員B(意見等)

- ・モルック体験教室は、幼児から高齢者までできる教室であるため事業を拡大するとよいと思います。
- ・地区別ソフトボールは、参加しやすいスポーツに変更することも、考えると良いのではないかと思います。
- ・町民体育祭については、参加しやすい内容を検討することも大切だと思います。
- ・イベントについては、団体外の人々も参加できるよう検討すべきだと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.19	事業名	温水プール管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
79,213,000	79,133,803	0	0	0	550,000	78,583,803
1.事業目的						
町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるような施設の一つとして、一年を通して活用できる温水プールを整備することで町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理業者による施設の確認 ・指定管理の範囲外の工事等について、検討し実施。 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
施設の管理運営が指定管理者に委ねられていることから、施設の適正な運営が行われているかの指導・助言を実施していく。また、指定管理者との連携を密にするため、定期的な連絡会議を引き続き実施していく。また協議のうえ、施設な改修が必要な個所について把握し、今後の改修に向けて準備を進めていく。令和6年度は指定管理者との契約5年目となるため、次期5年間の指定管理について検討していく必要がある。						
プール施設が開場から40年以上経過していたため、設備や躯体などの調査を行い、その結果を踏まえて、今後の方針を検討していく。						
備品購入については、コースロープが経年劣化しているため、新たに購入をする。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> ・温水プールのネーミングライツ契約 550,000円 (令和5年4月～令和6年3月分) (契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 2,750,000円) 愛称：オークマ温水プール 愛称の表示場所：プール施設（正面、東側）、案内板 ・令和6年度は指定管理者との契約5年目となるため、次期5年間の指定管理について、募集・更新手続きを行った。 ・温水プール老朽化に伴い、温水プールの長寿命化改修を行うための建物基礎調査を実施した。 大規模改修に長寿命化が見込めるとの調査結果を受け、温水プール改修基本計画を策定した。 ・定期的に情報共有会議を実施（指定管理施設の修繕計画や利用人数などの状況報告など） 						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理において、更新年度にあたり、指定管理の募集、更新手続きを行い、引き続きウィル大口スポーツクラブと5年間指定管理をお願いすることとなった。 ・今年度、施設長寿命化改修を検討するため調査を実施し、大規模改修に向け、改修する部分、更新する設備などを整理し、建物全体に係る予算や工事工期などを検討し、施設の大規模改修をどのように実施していくかの基本計画を策定し、次年度以降も検討していく。 ・プールのコースロープが経年劣化していたため、備品購入した。 						

6.事業の課題等

- 施設自体は、開場から40年以上が経過しており、令和6年度温水プールの長寿命化改修を行うための基礎調査を実施し、施設の躯体を生かし、長寿命化が見込めるところから基本計画を策定した。
- 温水プールの長寿命化を進めるため、施設の修繕内容や利用料などの検討を進めていく。

評価委員 A(意見等)

- 調査により長寿命化が見込めるということで安心した。温水プールは多くの子どもたちが利用し、大人にとっても貴重な施設である。周辺の施設も少なくなり、貴重な施設なので是非長く維持してもらいたいと思います。

評価委員 B(意見等)

- ネーミングライツ契約で愛称の表示方法を検討してはどうでしょうか。いかにも契約企業の所有物表示は如何なものかと思います。『ネーミング』の隣に『Naming Rights』とか『Naming・R』『N・R』とか表示したらどうかと思います。

- 指定管理の入札について、競合は良いと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.20	事業名	グラウンド等管理事業		課名	生涯学習課	
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
56,316,000	55,838,318	0	0	0	1,200,000	54,638,318
1.事業目的						
町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるよう、また、多種多様なスポーツ種目の要望に応えられるように施設を整備し、町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理業者による施設の確認 ・指定管理の範囲外の工事等について、検討し実施。 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
管理運営が指定管理者に委ねられている施設について、指定管理者が適切な管理に努めるよう指導・助言をしていく。また、経費抑制や適正な管理ができるよう協議を続ける。 施設の利用については、利用者が利用しやすいように、利用の仕方を指定管理者と協議しながら考えてい有必要がある。 令和6年度はオーケマグラウンド管理棟に漏水が見られるため、防水対策を講じる。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
工事 総合運動場北側トイレ改修工事 12,787,500円 総合運動場のネーミングライツ契約 600,000円（令和6年4月～令和7年3月分） （契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 3,000,000円） 愛称：オーケマグラウンド 愛称の表示場所：正門、管理棟、A面スタンド、案内板						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> ・温水プール同様、グラウンド管理についても指定管理者であるウィル大口スポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有をしながら施設運営することができた。 ・工事において、管理棟防水改修工事を予算措置していたが、施工方法を再検討するため、9月に補正で予算を減額し、令和7年度当初予算に設計監理委託を計上した。 総合運動場北側トイレにおいては、利用者が多くなったことや、屋根からの雨漏り等があり、補正予算で建物の外壁塗装、トイレ改修及び屋根の防水措置、ガラストップのコーティングを行うため、工事を実施した。 						
6.事業の課題等						
平成27年度からすべてのスポーツ施設を指定管理者制度に移行したため、指定管理者と調整しながら施設の維持にあたっている。 引き続き、全ての施設がより適正に管理・運営されるような施設管理の方法を検討していく。						

評価委員 A(意見等)

- ・適切な維持管理をお願いしたいです。

評価委員 B(意見等)

・「管理運営が指定管理者に委ねられている施設について、指定管理者が適切な管理に努めるよう指導・助言をしていく。」というのは特に大切であると思います。

・グラウンド管理の指定管理者について、入札による管理者選定をし、経費削減につなげることが大切なことだと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.21	事業名	野外活動施設管理事業		課名	生涯学習課	
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
5,059,000	4,541,029	○	○	○	○	4,541,029
1.事業目的						
町民が自然にふれあいながら規律、協調、友愛の精神を養い、心身ともに健全に、また、より豊かな心を養うことを目的とし、安心して利用できる施設管理を目的とする。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・設備の維持管理 ※外注分は協議・契約・履行確認 ・消耗品等の補充 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
施設の老朽化にしているため、修繕などで対応していくか、点検で撤去推奨判定の遊具については、撤去などの措置を行っていく。 日常管理を委託している地元の有志団体構成員の高齢化しているため、継続して管理ができるようサポートしながら実施していく。 今後の施設のあり方については、引き続き方向性を検討していく。施設の利用については、利用者が怪我なく利用しやすい運営に努める。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
アスレチック遊具の安全点検を年1回実施した。 日常管理を委託している団体にお願いをし、施設内のトイレ清掃、草刈り、施設の開閉錠を請け負ってもらった。 修繕（主なもの） 今年度なし						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> ・アスレチック遊具の定期点検を年1回実施しているが、複数の遊具で木の腐朽により、使用が危ない遊具については、使用禁止をし、次年度に撤去を行っていく。 ・今後、遊具だけでなく樹木の管理についても検討していく必要がある。 ・日常管理を委託している団体の構成員が高齢化しており、草刈り・落ち葉清掃の負担が大きい作業において、来年度以降、業者委託をお願いする方向で進めていきたい。 ・施設全体のあり方について、敷地内の樹木管理やアスレチック遊具の管理、キャンプ場の利用も少ないことから、今後の課題として、施設の方向性を地元と検討していきたい。 						
6.事業の課題等						
開場からすでに40年以上経過しており、施設全体の老朽化は否めない。アスレチック施設については経年劣化が目立ってきており、毎年の遊具点検により使用の可否を見極めながら、点検で撤去推奨判定の遊具については、撤去などの措置を行っていく。 施設全体のあり方について、敷地内の樹木管理やアスレチック遊具の管理、キャンプ場の利用も少ないことから、今後の課題として、施設の方向性を地元と検討していきたい。						

評価委員 A(意見等)

- 施設の雰囲気を見ても利用しづらいし、現実に利用者は少ない。子ども会活動も縮小傾向であまりディキャンプをすることもなくなった。こうした状況から、今後どのような施設にするか多方面からの検討が必要である。

評価委員 B(意見等)

- 日常管理を委託している地元の有志団体構成員が高齢化しているということなので、ボランティアを有償化したり、若返りを検討してもらったらどうかと思います。
- 草刈り・落ち葉清掃の負担が大きい作業ということであれば、業者委託をお願いするというのも検討してみてください。
- キャンプ場の利用が少ないとのことですが、折角だから、知恵を出し合い、魅力ある場所にしていってもらいたいと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.22	事業名	文化財保護事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
3,308,000	3,166,030	0	0	0	415,900	2,750,130
1.事業目的						
郷土に遺る貴重な文化遺産の保存及び活用に努め、次世代へ継承する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の保存と活用 ・新規に指定可能な文化財の調査 ・町の歴史に係る調査及び研究 ・埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 ・伝統芸能の普及と継承 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
指定・未指定に関わらず、町内に遺る多種多様な文化遺産について、専門家や地域住民の協力を得ながら調査を進め、その成果を町民に還元する。						
各地区に伝わる伝統芸能について、近年継続が困難になりつつあり、その傾向はコロナ禍によってさらに拍車がかかってしまった。このため、伝統芸能を次世代へ継承し、発表の場を創出することを目的として、毎年4月及び10月に開催する伝統芸能発表会と、大口北小学校で実施している、各地区保存会と児童の交流会を開催する。特に秋の伝統芸能発表会は、令和5年度に新しい会場（多世代が集う憩い広場）で初めて開催した結果、利点・課題等が浮き彫りとなった。今年度は利点を活かしつつ、課題をできる限り改善して実施する。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
町内に遺る多様な文化遺産については、研究者や地元住民の協力を得つつ調査を進め、さらに現地解説及び資料館に展示している指定文化財の解説等、普及啓発活動を行った。						
伝統芸能は、春及び秋の伝統芸能発表会を開催した。特に秋は、令和5年度より多世代が集う憩い広場で開催しており、今年度は大口町北地域自治組織が中心となり、多世代が集うまつり実行委員会を立ち上げ、会議を重ねて準備を進めた。						
5.事業の結果(成果)						
秋の伝統芸能発表会は、今年度より催事の運営組織として、大口町北地域自治組織を中心とする多世代が集うまつり実行委員会を立ち上げた。当日は伝統芸能発表会だけでなく、北地域で活躍する団体・個人のブース出展やもちつき体験等、令和5年度より参加する団体・個人が増え、併せて会場への来場者や伝統芸能発表会の観覧者が例年にも増して多かった。特に祖父母を伴う親子等、多世代で来場する方が多かったため、伝統芸能を次世代へ継承するという意味において非常に効果的であると感じた。						
6.事業の課題等						
秋の伝統芸能発表会について、参加団体数のさらなる増加等、令和5年度から引き続く課題に加え、今年度新しく来場者の導線を考慮に入れた会場レイアウトに関する課題が挙がる等、様々な意見が反省点として挙がったため、次年度はそれらの課題が解消できるように改善していきたい。						

評価委員 A(意見等)

- ・秋の伝統芸能発表会を地域の祭りと一体化して実施したことには意義があり、広く多くの人に伝統芸能に触れてもらうことができたと思います。
- ・様々な伝統芸能をどうやって次世代に引き継いでいくかは、大変難しい課題である。本当に残したいものに絞って、それをどう維持していくかを関係機関と検討していく必要があると思います。

評価委員 B(意見等)

- ・「指定文化財の保存と活用」・「伝統芸能の普及と継承」は特に大切だと思います。取りやめることは直ぐできるけれど、継続していくことは非常に大切であり、子ども達の郷土愛を育むことになる大切な事業であると思います。
- ・「指定文化財の保存」について、下記実例を是非復活させて頂きたいです。

【実例】

今から数十年前まで町内全域で実施されていた、お盆行事『精霊流し』が、あるとき突然『公害』という事で無くされてしまった。400年も続いて来たと言われている、伝統文化を公害とは考えられない理由で、無くしてしまった。

こんな事があってよいものだろうか。先人の文化を否定するがごとき行動である。なにか別の方法で継続できたのではないか。1年に1回の行事であるし、精霊船に積載するも物も食品とか・植物等の為、公害になるようなものは積載していないのである。どうしても松明で燃え残った残留物があるのであれば、川下に網でも張れば撤去できます。

このような努力・検討もしないで文化を消し去ってしまったのである。今後この文化を復活したいものだと思うが、一度消してしまった文化を復活させる事は大変なことである。宗教がらみではなく、全町民が参加できるように、例えば、水に溶ける紙で作った船とか筏に願を書いて、流してもよいではないだろうか。何とかして復活したい、いやしてもらいたいと思います。この地を離れ町外に住む人たちが、年に一度のお盆休みに故郷へ帰郷したときの思い出、なつかしさを是非復活させたい、これは子どもたちの郷土愛を育む大切な行事・文化になると思うのである。是非復活したい、して頂きたいものだと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.23	事業名	歴史民俗資料館運営事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
13,283,000	13,171,411	0	0	0	9,200	13,162,211
1.事業目的						
先人の培ってきた過去のあゆみを現在に伝えるため、郷土「おおぐち」に関する事柄や美術分野等の展示を行い、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の見学受入れや資料貸出等により、学校教育に寄与する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の企画展開催 ・資料館内の管理及び運営 ・展示解説及び展示物に係る調査研究 ・文化財収蔵庫の管理 ・収蔵品の管理及び活用 ・小中学校等の見学受入れ ・博物館実習生の受入れ ・年報及び展示図録等の発行 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
年4回開催している企画展のうち、家族連れを対象とした毎年恒例の春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は、令和5年度は入館者が安心・安全に利用できる方法で開催した。夏・秋の企画展も含め、引き続き安心・安全を確保しつつ、より親しみやすい企画展を開催し、資料館に足を運んでいただく方法を検討しなければならない。						
文化財収蔵庫内の資料及び施設自体の活用を推進する。収蔵品については、小中学校及び高齢者施設等が積極的に利用できるように努める。						
春及び冬の企画展は、安心・安全を確保した上で、より多くの入館者に足を運んでもらえるよう開催する。また、夏及び秋の企画展は、夏休み中の小中学生を対象とした内容や、町内の歴史に関するテーマを中心に開催する。						
文化財収蔵庫及び収蔵品の活用は、年1回の施設開放及び月1回の「オレンジカフェ・大口」への資料貸与を実施し、教育及び福祉関係機関と連携を進める。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
○資料館企画展						
春の企画展「端午の節句」						
会期：令和6年4月20日（土）～6月2日（日） 入館者数：1,096人						
夏の企画展「空からみた おおぐち」						
会期：令和6年7月20日（土）～9月1日（日） 入館者数：609人						
秋の企画展「まちがひとつのチームになったとき～わかしゃち国体の軌跡～」						
会期：令和6年10月26日（土）～12月8日（日） 入館者数：705人						
冬の企画展「ひなまつり」						
会期：令和7年1月25日（土）～3月9日（日） 入館者数：2,874人						
○その他資料館活動						

中学生職場体験受け入れ（令和6年9月4日（水）～6日（金））
博物館実習生受け入れ（令和6年9月4日（水）～8日（日））
文化財収蔵庫1日開放（令和6年11月2日（土）、3日（日））
「オレンジカフェ・大口」資料貸与（毎月第3木曜日）

5.事業の結果(成果)

今年度の企画展は、毎年恒例となる春の「端午の節句」及び冬の「ひなまつり」とともに、夏及び秋は大口町の現代をテーマに開催した。対象は夏が子ども、秋が大人と違っているが、昨年度刊行した『大口町史～現代史編～』の成果を活かした展示とした。

6.事業の課題等

特に夏・秋の企画展は現代におけるまちのあゆみを披露する場として有効に活用できたが、来館者数が伸びなかっただけで、来年度は少しでも多くの来館者が来るような仕掛けをつくる。

文化財収蔵庫及び収蔵品の活用は引き続き実施することができているが、次年度以降も教育及び福祉関係機関との連携を密にして推進していきたい。

評価委員 A(意見等)

・毎年4回の企画展を工夫され、充実した内容になっている。来場者数が伸びないのは、場所の影響もあって仕方ないと思います。他の施設と一緒に回れるようなイベントを他団体と連携して計画してみたらどうでしょうか。

評価委員 B(意見等)

・先人の培ってきた過去のあゆみを現在に伝えるため、文化財収蔵庫にあるものを子どもたちに見てもらい、現在に行き着いた過程等を知ってもらいたい。そのための施設の改善が必要なら改善もしていただきたいと思います。

・企画展について、対象は夏が子ども、秋が大人と違っているが、子どもと大人が一緒に見学でき、コミュニケーションが取れるような企画をしていただきたいと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.24	事業名	歴史文化教育事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
—	—	—	—	—	—	—
1.事業目的						
郷土「おおぐち」の歴史及び文化を、様々な団体と連携しながら次世代へ継承することにより、町民が郷土を愛し、町の魅力として誇りを持てるまちづくりを推進する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園との連携事業 ・小中学校における郷土学習 ・地域自治組織との連携事業 ・町内各種団体との連携事業 						
3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
各保育園及び各地域自治組織との連携、町内の小学校6年生及び中学校2年生を対象とした「松江開府の祖 堀尾吉晴公」をはじめ、他学年においても郷土「おおぐち」をテーマとした授業を実施。機会があれば様々な団体と連携し、幅広く展開する。 また、小中学校の郷土学習での講話や資料提供等、可能な支援を提案し、重点的に連携を推進する。						
4.令和6年度の取り組み(事業実績)						
○保育園連携「郷土を愛する心を育む活動」 北保育園（入鹿切れ・小口城・織田街道）計4回 西保育園（山姥物語・仁所野遺跡）計5回 南保育園（裁断橋物語・汗かき地蔵（鋳鉄地蔵菩薩立像））計5回						
○小中学校連携 小学校3年生「昔の道具」での見学・体験プログラム 小学校3年生「まちたんけん」での現地解説 小学校5年生「総合学習」における学習支援 小学校6年生「郷土の偉人 堀尾吉晴公」 等						
○地域自治組織 南地域自治組織：かわら版における「南地域のたからもの」連載 北地域自治組織：地域の文化遺産に関する講座及び現地見学 中地域自治組織：アドバイザーとして歴史民俗部会に参加						
この他、町内で活躍する団体等からの依頼により地域の文化遺産を活かした連携及び助言を行う。						
5.事業の結果(成果)						
今年度は小中学校からの依頼が減少したが、小学校高学年対象の授業で依頼を受けた際、保育園を卒園した児童に話を聞くと保育園での活動のことを覚えていることが多く、活動で取り扱った文化遺産のことなどを把握していた。これは数字では明確に根拠を提示できないが、本事業に一定の効果があったことを示している。						

6.事業の課題等

次年度以降も引き続き郷土学習や資料提供等、できる限りの支援メニューを策定し、各団体との連携を深めていきたい。

評価委員 A(意見等)

- ・保育園児や小学生にいろいろと教えてくださっているので、子どもの方が大人よりも郷土の歴史に詳しいと思います。
- ・大人にも郷土についてもっとよく知ってほしいので、各自治組織との連携を今後も密にしていただきたいです。

評価委員 B(意見等)

- ・小中学校の郷土学習での講話や資料提供は、郷土愛を育む事業にしていって頂きたいものです。
- ・堀尾史跡と共に小口城を大口町の二大史跡として、推進して頂きたいと思います。

令和7年度（令和6年度事業）外部評価点検シート

No.25	事業名	図書館運営事業		課名	図書館	
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
39,085,000	38,830,079	0	0	0	102,623	38,727,456

1.事業目的

時代やニーズを的確に把握して、利用者に対して必要な図書や資料の提供に努め、利用者の増加を図る。そのために、利用者が新たな図書と出会える場を積極的に創出し、図書館サービスの向上を図る。小さな時から本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。また、郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。

2.事業内容

- ・図書館の調査及び統計に関すること
- ・図書館の広報、年報の作成
- ・図書資料の貸出、返却に関すること
- ・レファレンス(参考調査)に関すること
- ・図書館資料の選書に関すること
- ・郷土資料の収集・保存等に関すること
- ・読書活動の推進に関すること
- ・おはなし会・イベント開催に関すること
- ・図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること

3.令和6年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

- ・近年インターネットやゲーム等の普及により、読書以外の遊びが増え、子どもの図書離れが深刻化している。幼少期から図書に触ることは「読解力」を高めることにもなることから、子どもが図書に興味を持つような読書推進事業を展開していくことが課題となる。
- ・幼少期は両親に連れてきてもらうため利用者が多い。しかし10代になると、自分の意志で図書館へ行く年齢となるため、極端に利用者が減少する。図書館離れを少しでも減らすためにも魅力ある書籍を提供していくことが課題となる。
- ・近年、近所付き合いの希薄、地域活動の減少、アフターコロナ、核家族化等で高齢者の居場所が減る中、居場所として図書館が注目されている。物理的に限られたスペースで居場所としての空間づくりが課題である。

4.令和6年度の取り組み(事業実績)

- ・幼少期から図書館で本を借りて読む習慣をつけるため、小学生以下対象のスタンプカードを昨年から導入、2年目になるがGW、夏休み、冬休みなど長期休みにWスタンプ期間を設け、通常のスタンプではなく、特別なスタンプやシールなどで趣向を凝らした。また、子ども読書推進のためのイベントを年3回に増やした。
- ・幼いころから図書館で本を借りる習慣ができている子たちが、成長していく過程で図書館離れにならないようにするためにも、アンケート・施設見学・職場体験等で最新の意見を聞く機会を設け、選書に取り入れた。

・雑誌スポンサー制度のスポンサーを増やすために、広報やホームページの他にも、企業支援課と連携して図書館の雑誌スポンサー制度を町内企業に機会があるごとに周知した。

・近所付き合いの希薄、コロナ後の地域活動の減少、核家族化等、近年高齢者の居場所が必要である。その居場所として図書館を利用してもらうことはできる。このことを知ってもらうため、高齢者の興味関心が高い本や大活字本を積極的に取り入れ、紹介した。

5.事業の結果(成果)

小学生以下対象のスタンプカードも順調に浸透し、1年間でスタンプカード満了者が昨年の89名から229名と大幅に増え「図書館で本を借りる習慣をつける」という目的の効果が出た。そのため、今後もスタンプカードを継続して行っていく。他には、子ども読書推進のためのイベントを昨年より回数を1回多く年3回行った。また、近年利用の少ない10代の本離れが課題であったが、ライトノベル小説の蔵書を増やしコーナーをロビーに設置した結果、中高校生世代の利用者が昨年より100名以上増加させることができた。雑誌スポンサーについては、企業支援課と連携したことにより、来年度新規で2件申し込みがあった。

6.事業の課題等

・近年、近所付き合いの希薄、地域活動の減少、アフターコロナ、核家族化等で高齢者の居場所が減る中、居場所として図書館が注目されている。物理的に限られたスペースで居場所としての空間づくりが課題である。

評価委員A(意見等)

・スタンプカードの満了者が大幅に増えたのは、大きな成果だ。子どものうちに本に親しむ経験を積むのはその後の成長により影響を与えるものと思います。
・中高校生の世代の利用者を100名以上増加させ、10代の本離れにブレーキをかけたのもすばらしい成果です。今後も様々な工夫を重ね、多くの人に図書館を活用してもらえるようにしていただきたいです。

評価委員B(意見等)

・読書以外の遊びが増え、子どもの図書離れが深刻化について
1子育ての親子の居場所の提供してみてはどうでしょうか。
2映像(DVD)等を取り入れ、図書館に来てもらえるような機会つくりが大切だと思います。
3核家族化等、近年高齢者の居場所として利用してもらう、図書の利用を促進してもらう、これも大切なと思います
・スタンプカード・子ども読書推進のためのイベントをもっと増やしていただけたらと思います。